

土地境界図作成例 (別紙13)

私所有の下記土地と隣接する都有地・国有地との境界について本境界図のとおり合意する。			
立会場所・土地の地番	土地所有者 住所 氏名 印	立会年月日	合意年月日
八王子市川口町 34番1、34番2	八王子市川口町 34番 日本 太郎 印	令和2年 4月3日	令和2年 6月1日
多摩市大字連光寺字本村 23番、24番	立川市錦町四丁目 15番3 東京 三郎	令和2年 4月3日	令和一年 一月 一日
多摩市大字連光寺字本村 23番、24番	札幌市南三条北四丁目 5番1 鈴木 一 印	令和一年 一月 一日 前所有者の立会を継承	令和2年 6月3日

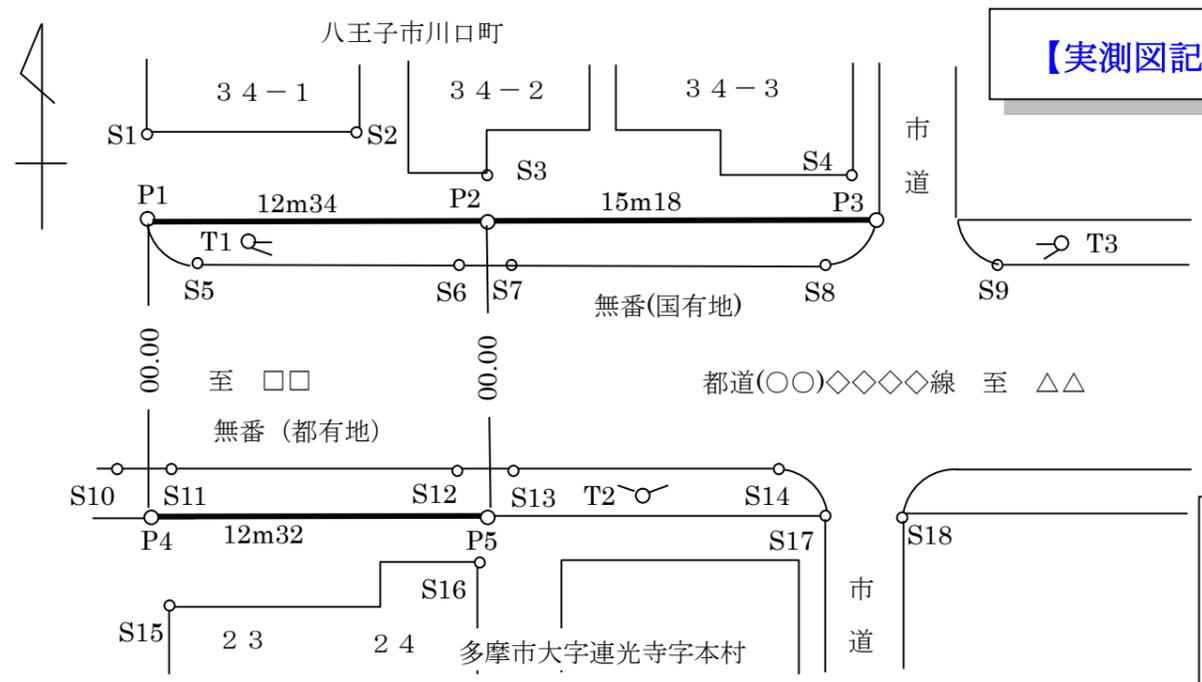
土地境界図		
土地の所在 地番	八王子市川口町 34番1 ほか 多摩市大字連光寺字本村 23番 ほか	縮尺 1/250

- (注) ※ この欄は実務取扱者が記載する。  
 ※ 合意した土地所在地番が複数ある場合は「ほか」を忘れずに書くこと。  
 ※ 複数の区市町村を含む土地境界図はそれぞれの土地所在代表地番を記載する。

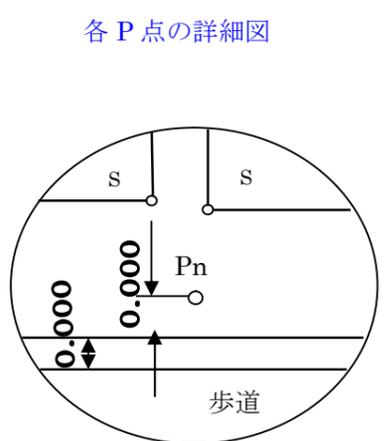
符号	X	Y	備考
P1			市石・
P2			市 鋳
P3			市プレート・
P4			みかげ石・
S1			家屋角
S2			ブロック塀
T1			鋳
T2			鋳
T3			鋳

- (注) ※ 立会場所・土地の地番、住所、氏名、立会年月日、合意年月日は、本人が記名押印する。  
 (申請者は実印)  
 ※ 記名はボールペン等で記入する。ただし、官公庁、法人等はゴム印でも可とする。  
 ※ 合意年月日は、本人が記名押印した日とする。  
 ※ 都有地・国有地の標記については該当する一方を記載する。(両方該当する場合は両方記載)  
 ※ 土地所有者に相続等があった場合は、被相続人と相続人を記載する。

- (注) ※ 石標・プレートの形状は現形を記入する。  
 ※ 座標欄の下に、既に財務局で確定済の境界点については「〇〇点は財務局確定済点」建設局にて確認・確定済の境界点は「〇〇点は建設局確認済点」または「〇〇点は建設局確定済点」と記入する。  
 ※ 世界測地系を使用した場合は「世界測地系の座標表示である」旨及び使用した座標系を記載する



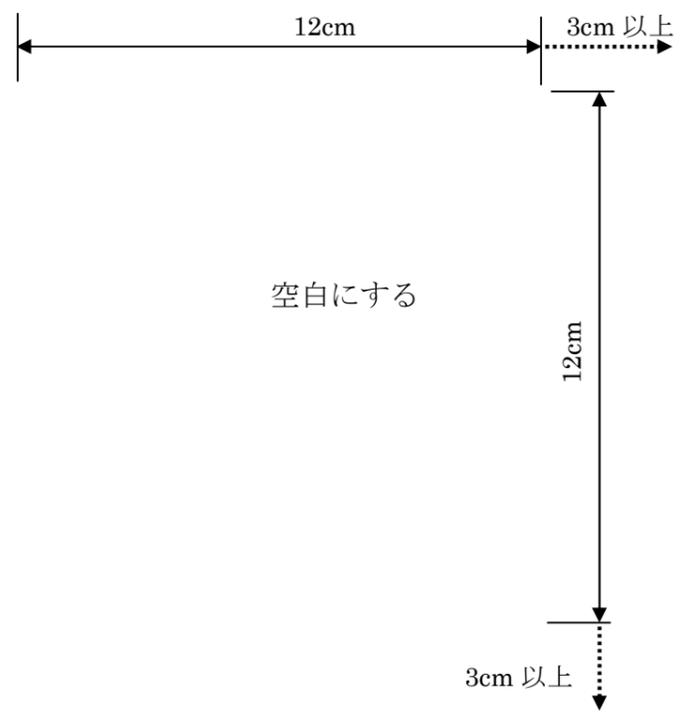
【実測図記載例】



各P点の詳細図

**【実測図(下図)提出の注意事項】**  
 ※ 下図は、記名押印前の本図の写しを持って、下図とする。  
 ※ 本図を提出するときは、必ず下図を持参する。  
 ※ 石標・プレート等の形状を記入する場合は、原型を記入する。

- (注) ※ P点は一重丸で統一する。  
 ※ 公図と現地が異なる場合は、上段を公図上の地番を、下段に合意地番を( )で表示する。  
 ※ 複数の丁目、字等を含む場合は、それぞれの丁目、字等を記入する。  
 ※ 文字・数字の大きさは縦横 2.0mm 以上で鮮明に読み、点間は太さ 0.3mm の線とする。  
 ※ 辺長は民地側に記入し、P点間距離は小数点以下3位切捨てとする。  
 ※ 境界点や引照点が図面上で分かりづらい場合、もしくは書ききれない場合は詳細図を記載する。  
 ※ 機械点は3点以上記載すること。  
 ※ 河川の場合は、河川名を記載、上流から下流に向かって矢印表示をする。



- ※ 作成者欄の押印は調査士の場合は職印で押印し、法人の場合は代表者の登録印で押印する(申出書と一致させる)。

作成者	印
測量年月日	令和 年 月 日

- ※ 立会日以降の年月日を記載する。

